

2024年度 第2四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2024年10月28日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

※2024年度より、光学樹脂を
シクロオレフィンポリマー(以降、COP)
と記載します。

2024年度Q2連結実績

売上高
1,072億円
QoQ+1%

営業利益
78億円
QoQ▲14%

経常利益
64億円
QoQ▲48%

親会社株主に帰属
する当期純利益
41億円
QoQ▲50%

◆ 増減要因

売上高：COP、光学フィルムの出荷量増

営業利益：原料調達先での供給不具合、国内主要工場の定期修繕により出荷量減、原料価格および海上運賃高騰等

経常利益、当期純利益：円高による為替差損等

2024年度上期連結実績

売上高
2,133億円
YoY+15%

営業利益
168億円
YoY+78%

経常利益
186億円
YoY+43%

親会社株主に帰属
する当期純利益
123億円
YoY+19%

◆ 増減要因

売上高：COP、光学フィルムの出荷量増、合成ゴムの原料価格高騰による販売価格改定等

営業利益：同上、さらに歩留まり良化

経常利益：同上、ただし為替差益は減少

当期純利益：同上、ただし為替差益および投資有価証券売却益は減少

2024年度通期連結業績予想

売上高
4,150億円
+5%

営業利益
235億円
▲11%

経常利益
245億円
▲11%

親会社株主に帰属
する当期純利益
190億円
+9%

◆ 修正要因

売上高：下期アジアBD前提を\$1,100から\$1,400に引き上げ、光学フィルムの出荷量増等を織り込み

営業利益、経常利益：下期為替US\$155円⇒US\$145円に見直し

水島工場のCOPの合計4つの生産系列のうち、1 生産系列に不具合が発生した影響（＊）等

当期純利益：投資有価証券売却益の増加

（＊）不具合の箇所は特定済であり、稼働再開まで3ヶ月程度の期間を要する見通し。

併せて再発防止も実施し、2025年度および中計目標への影響は軽微となる見込。

お客様への製品出荷は現有在庫の活用などで対応

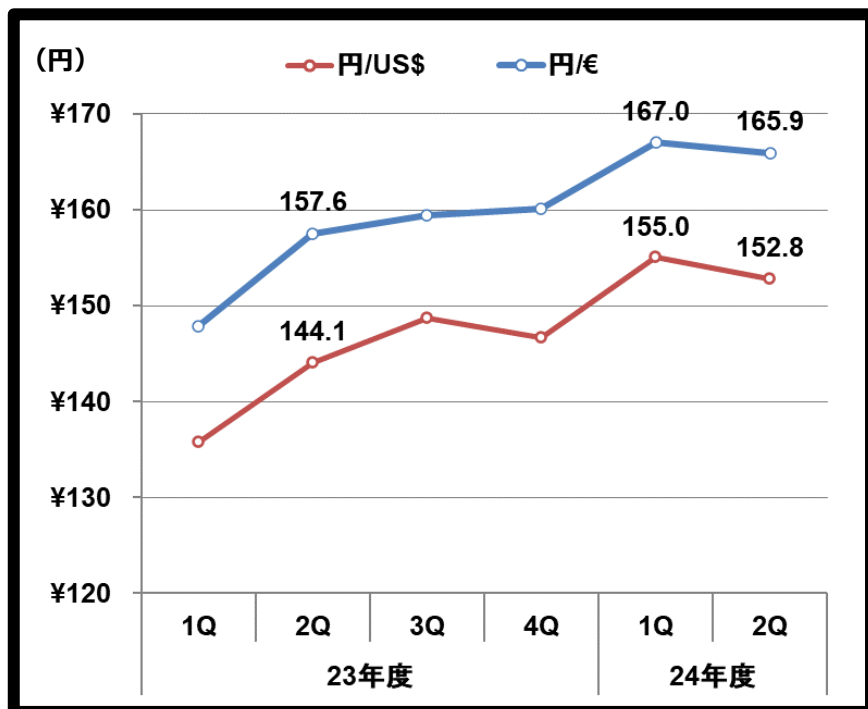
2024年度株主還元

DOE
4%以上

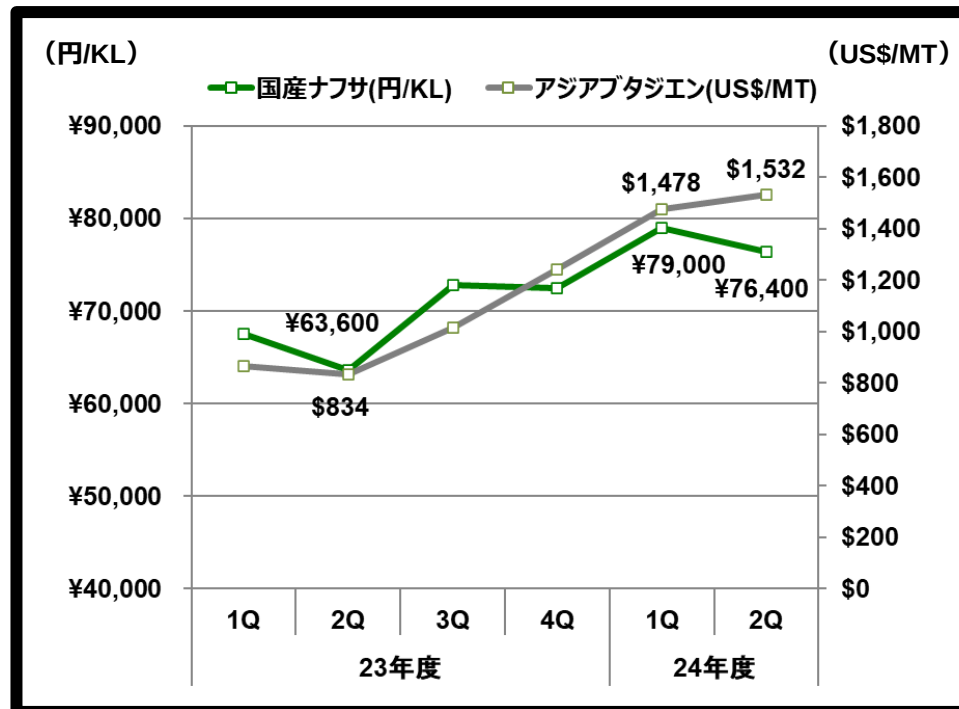
自己株式の取得
200億円

- ◆ 配当方針を「自己資本配当率（DOE）4 %以上」とする
- ◆ 2024年度年間配当金予想は70円
- ◆ 自己株式取得の上限を2,000万株/200億円に変更

【為替推移】



【主原料推移】



		2023年度 Q2	2024年度 Q1	2024年度 Q2	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥144.1	¥155.0	¥152.8	+6%	▲1%
	円/€	¥157.6	¥167.0	¥165.9	+5%	▲1%
主原料	国産ナフサ/KL	¥63,600	¥79,000	¥76,400	+20%	▲3%
	アジアブタジエン/MT	\$834	\$1,478	\$1,532	+84%	+4%

※国産ナフサ：2023年度Q2及び2024年度Q1は確報値、2024年度Q2は当社見込値

P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

（単位：億円）

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2023年度 Q2累計	2024年度 Q2累計	対前年 同期比
	2023年度 Q2	2024年度 Q1	2024年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減			
売上高	935	1,061	1,072	+137	+11	1,854	2,133	+279
営業利益	33	90	78	+44	▲13	95	168	+73
経常利益	47	122	64	+16	▲59	130	186	+56
当期純利益	45	82	41	▲4	▲41	104	123	+19

- 前年同期比 : 売上高 +137億円、営業利益 +44億円
- 前期比 : 売上高 +11億円、営業利益 ▲13億円
- 通期対前年度比 : 売上高 +279億円、営業利益 +73億円

注記：海外関係会社の2024年4～6月実績がQ2連結決算に反映されています。

2024年度Q2 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2023年度 Q2	2024年度 Q1	2024年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減
高機能材料	262	303	312	+50	+9
エラストマー素材	525	602	604	+79	+2
その他の事業、消去等	148	155	156	+8	+1
売上高合計	935	1,061	1,072	+137	+11

【営業利益】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2023年度 Q2	2024年度 Q1	2024年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減
高機能材料	26	53	55	+29	+3
エラストマー素材	12	38	22	+11	▲ 15
その他の事業、消去等	▲ 4	▲ 0	▲ 0	+4	▲ 0
営業利益合計	33	90	78	+44	▲ 13

2024年度上期 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	2023年度 上期	2024年度 上期予想	2024年度 上期	対前年 同期比	増減率	対上期 予想比	増減率
高機能材料	514	600	616	+102	+20 %	+16	+3 %
エラストマー素材	1,047	1,200	1,207	+159	+15 %	+7	+1 %
その他の事業、消去等	293	300	311	+18	+6 %	+11	+4 %
売上高合計	1,854	2,100	2,133	+279	+15 %	+33	+2 %

【営業利益】	2023年度 上期	2024年度 上期予想	2024年度 上期	対前年 同期比	増減率	対上期 予想比	増減率
高機能材料	66	90	108	+42	+64 %	+18	+20 %
エラストマー素材	36	60	60	+24	+65 %	+0	+0 %
その他の事業、消去等	▲ 8	0	▲ 0	+8	▲ 98 %	-	- %
営業利益合計	95	150	168	+73	+78 %	+18	+12 %

P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

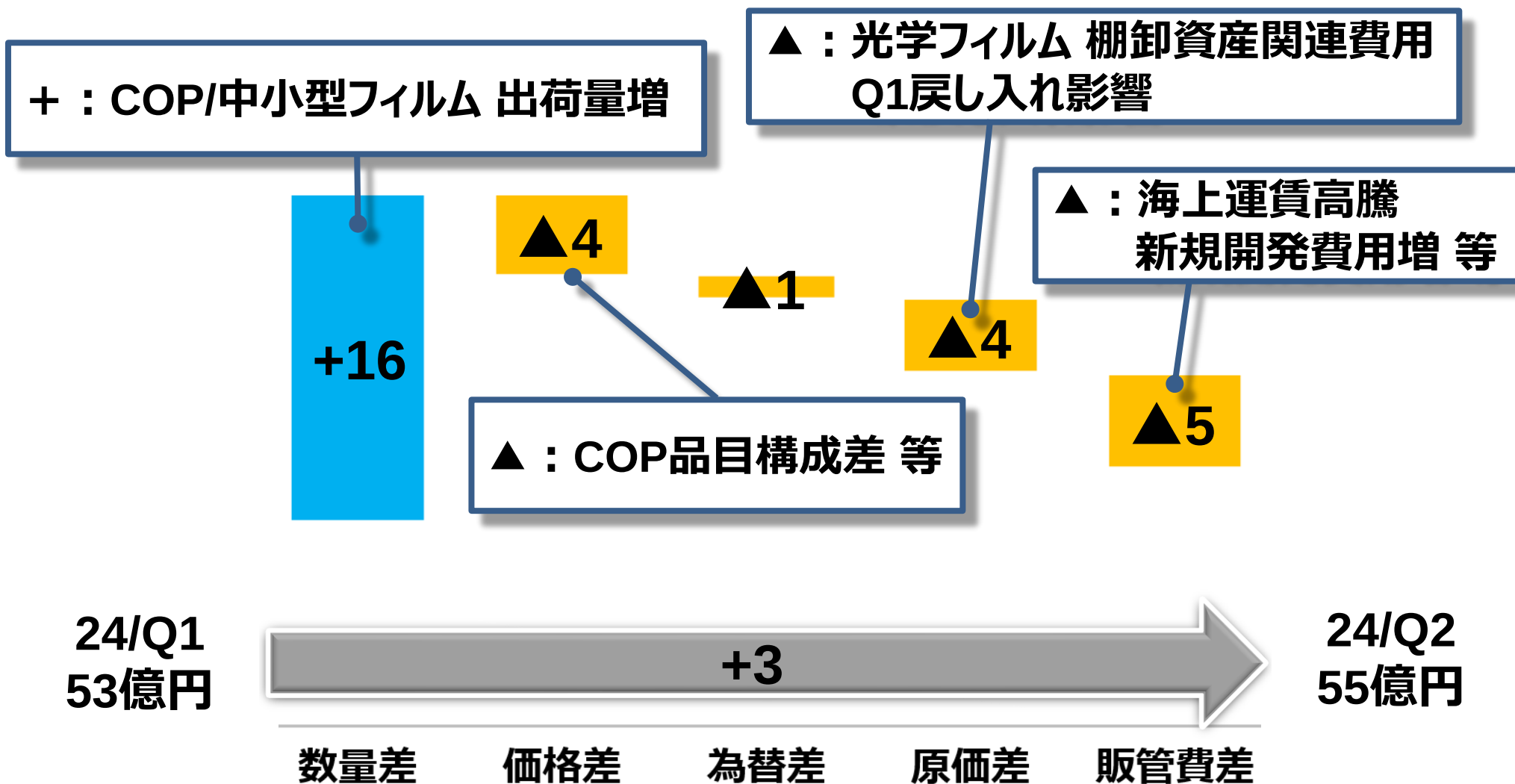
(単位：億円)	2023年度 Q2	2024年度 Q1	2024年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	262	303	312	50	19 %	9	3 %
※ 高機能樹脂	163	199	207	44	27 %	8	4 %
高機能ケミカル	89	94	96	7	8 %	2	2 %
メディカル他	10	10	10	▲ 1	▲ 6 %	▲ 0	▲ 4 %
営業利益	26	53	55	29	113 %	3	5 %
営業利益率	10%	17%	18%				

※ 高機能樹脂 : COP、光学フィルム
高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー

■ 高機能樹脂 : COP、光学フィルムともに出荷量増により、YoY、QoQともに増収増益

■ 高機能ケミカル : プリンタ市場および半導体市場が堅調でトナーおよび電子材料の出荷量が増加し、売上はYoY、QoQともに増収
化学品の合成香料および電池材料の出荷量減および市況価格下落の影響を受け、営業利益はYoY、QoQともに減益

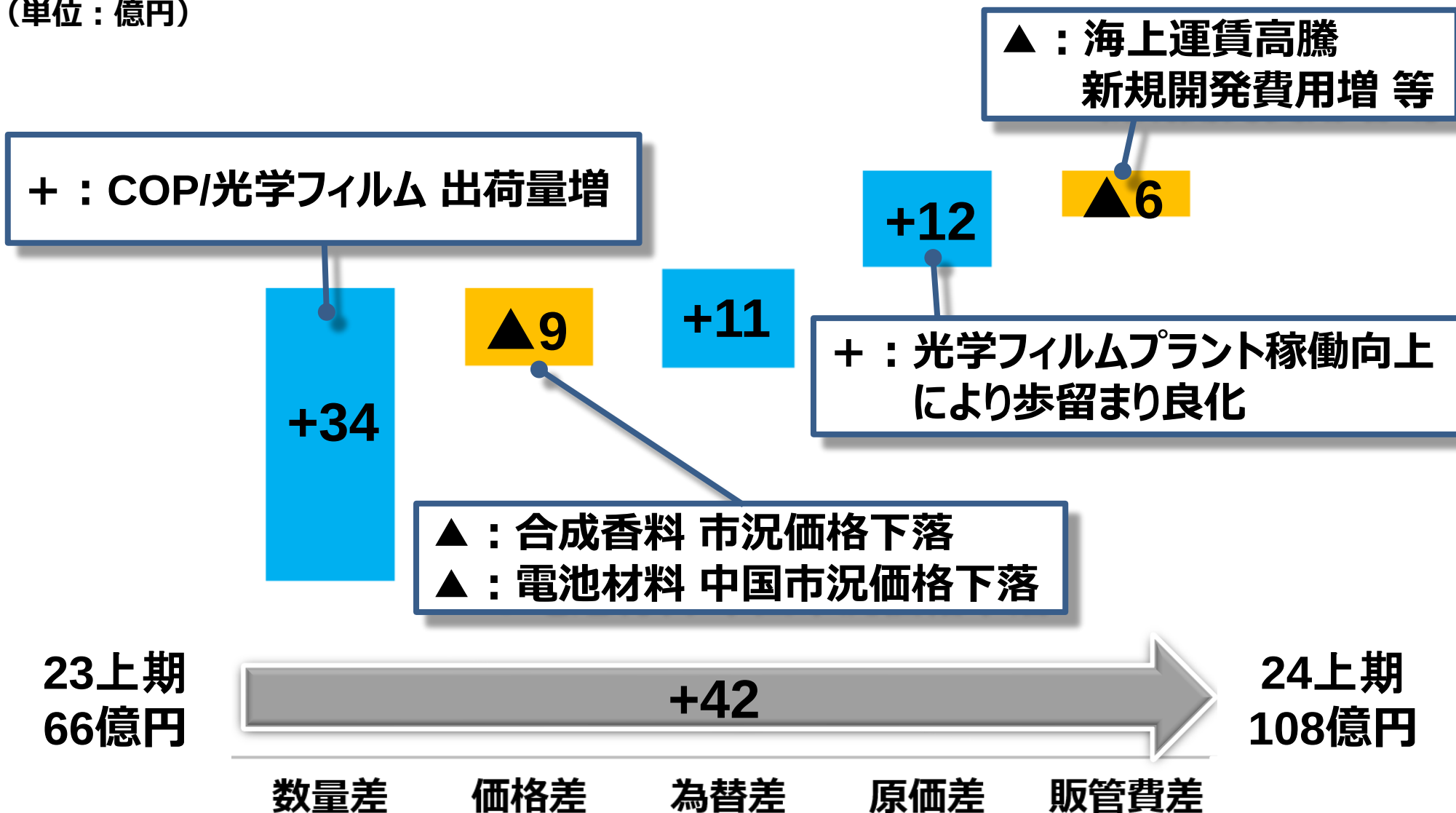
（単位：億円）



高機能材料事業：要因別 営業利益差異 (YoY)

ZEON

(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	60%	91%	72%
民生他向け	175%	119%	167%
全体	77%	99%	87%

■ EV向け

欧州を中心としたEV販売台数の急激な落ち込みによる在庫調整の影響により、YoY、QoQともに出荷量減

■ 民生他向け

モバイル端末向け回復継続に加え、ESS用途向けの販売が伸び、YoY、QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	127%	102%	145%
医療その他向け	137%	120%	115%
全体	134%	114%	122%

■ 光学用途向け

スマホ向け、プリンター向けともに堅調な需要が継続し、YoY、QoQともに出荷量増

■ 医療その他向け

Q1出荷端境期の反動増および半導体容器向けで市場回復の追い風を受け、YoY・QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	135%	104%	123%
大型向け	118%	95%	123%
全体	121%	97%	123%

■ 中小型向け

スマホ向け出荷前倒し継続およびタブレット向け堅調によりYoY、QoQともに出荷量増

■ 大型向け

Q2後半よりパネルメーカー生産調整の影響でQoQは出荷量減となるも、23年9月稼働新ライン分の需要を取り込みYoYは出荷量増

P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

(単位：億円)

	2023年度 Q2	2024年度 Q1	2024年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (23/Q2=100)	100	109	108	8 pt	8 %	▲ 1 pt	▲ 1 %
合成ゴム	100	101	93	▲ 7 pt	▲ 7 %	▲ 8 pt	▲ 8 %
ラテックス	100	149	171	71 pt	71 %	22 pt	15 %
化成品	100	114	129	29 pt	29 %	15 pt	13 %
売上高	525	602	604	79	15 %	2	0 %
合成ゴム	405	455	451	46	11 %	▲ 4	▲ 1 %
ラテックス	25	34	41	16	67 %	8	22 %
化成品	82	102	99	17	21 %	▲ 3	▲ 3 %
その他・消去	13	12	12	▲ 1	▲ 9 %	0	3 %
営業利益	12	38	22	11	90 %	▲ 15	▲ 41 %
営業利益率	2%	6%	4%				

■ 合成ゴムを中心に原料価格高騰による販売価格改定を行い、YoYは増収増益

■ 原料調達先での生産不具合および国内主要工場の定期修繕により出荷量は減少し、QoQは減益

エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)

+ : 合成ゴム 販売価格改定

▲ : 合成ゴム 出荷量減

+13

▲4

▲1

▲ : 原料価格高騰 等

▲16

▲ : 海上運賃高騰 等

▲7

24/Q1
38億円

▲15

24/Q2
22億円

数量差

価格差

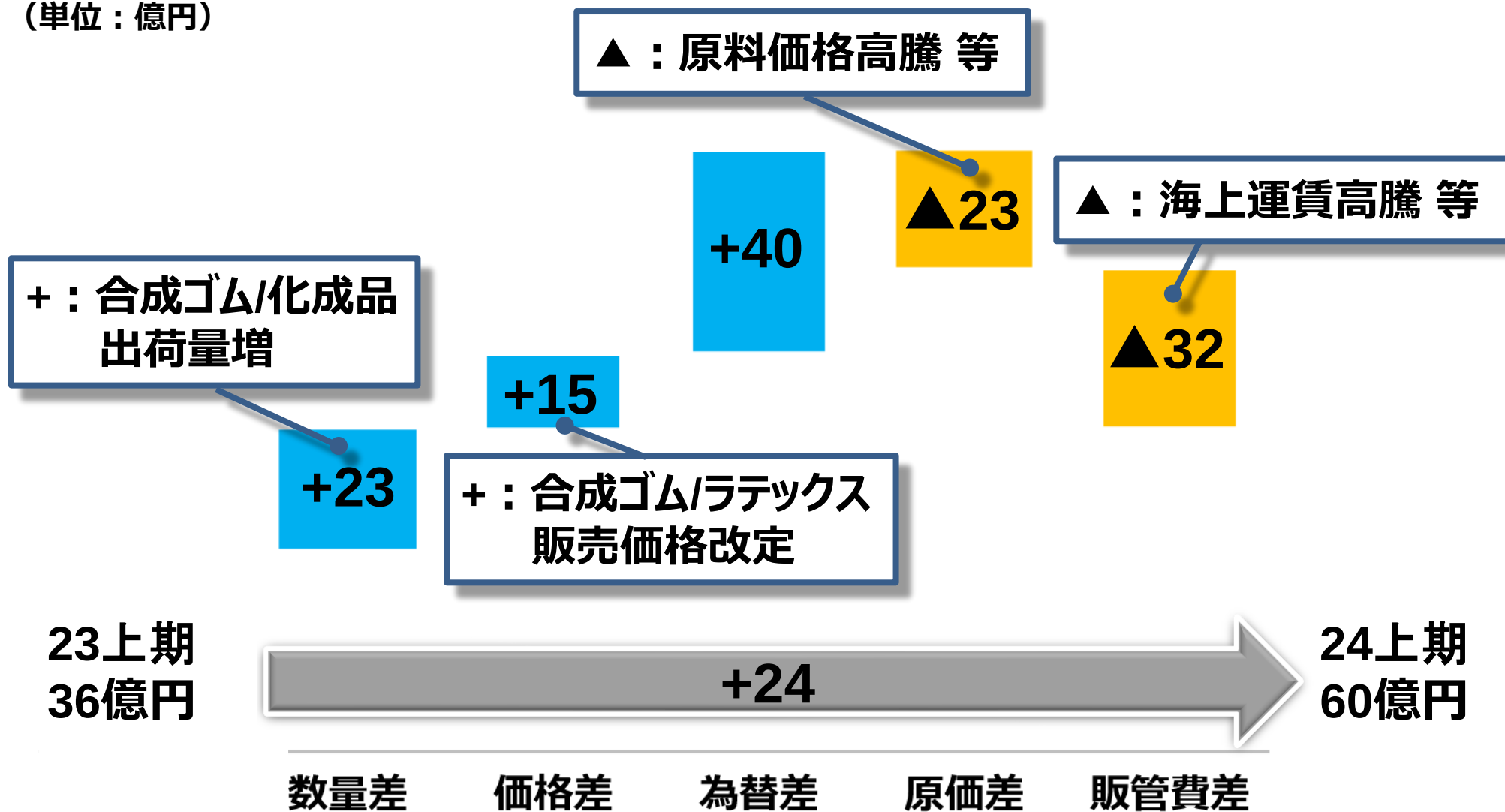
為替差

原価差

販管費差

エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材：合成ゴムの状況（製造拠点出荷量） ZEON

	YoY	QoQ	YoY累計
特殊ゴム	90%	96%	95%
汎用ゴム	94%	91%	104%
全体	93%	92%	101%

■ 特殊ゴム

徳山工場および高岡工場定期修繕のため出荷調整を行い、YoY、QoQともに出荷量は減少

自動車産業における一部生産停止の影響を受け、需要は弱含む

■ 汎用ゴム

原料供給の不具合に加え、徳山工場定期修繕のため出荷調整を行い、YoY、QoQともに出荷量は減少

P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

総資産5,344億円（+22）

【流動資産】 +2億円

- ◆現預金 ▲108億円
- ◆売掛債権 +18億円
- ◆未収入金 ▲103億円
- ◆棚卸資産 +130億円

流動資産
3,012
(+2)

固定資産
2,332
(+19)

【固定資産】 +19億円

- ◆有形固定資産 +47億円
- ◆投資有価証券 ▲41億円

【流動負債】 ▲54億円

- ◆買入債務 ▲178億円
- ◆コマーシャルペーパー +150億円

流動負債
1,382
(▲54)

固定負債 227 (▲22)

純資産
3,735
(+98)

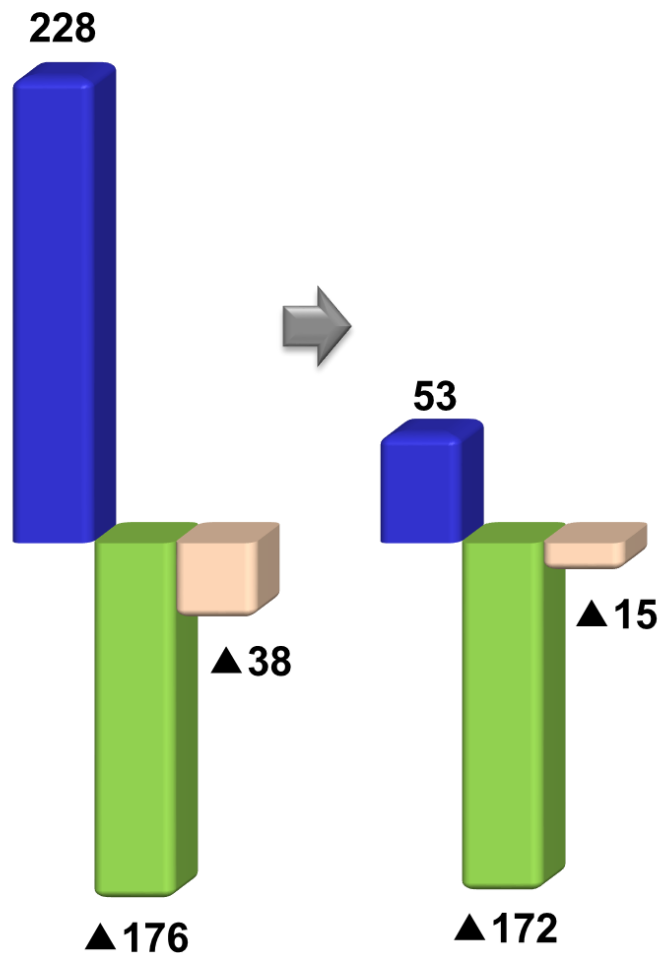
【純資産】 +98億円

- ◆自己資本比率 69.7% (+1.7)
- ◆D/Eレシオ 0.06 (+0.04)

(単位：億円)

2023年度Q2

2024年度Q2



■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

(単位：億円)

	2023年度Q2	2024年度Q2
営業CF	228	53
投資CF	▲176	▲172
フリーCF	52	▲119
財務CF	▲38	▲15
CF	14	▲134

【営業CF】	▲175億円
◆ 税前利益	14億円
◆ 評価処分損	14億円
◆ 運転資金	▲160億円
◆ 税金	▲42億円
◆ その他	▲1億円

【財務CF】	+23億円
◆ 資金調達(CP)	140億円
◆ 配当金	▲10億円
◆ 自己株式取得信託設定	▲100億円
◆ その他	▲6億円

(単位：億円)

【営業外損益】	2023年度 上期	2024年度 上期	YoY 増減
受取利息・配当金	18	16	▲2
為替差損益	23	7	▲16
助成金	0	4	+4
支払利息	▲0	▲1	-
投資事業組合運用損	▲2	▲2	-
貸倒引当金繰入額	▲0	▲2	▲2
休止資産固定費	▲4	▲3	+1
寄付金	0	▲3	▲3
その他	1	2	+1
営業外損益合計	36	18	▲18

【特別損益】	2023年度 上期	2024年度 上期	YoY 増減
固定資産売却損益	0	0	-
投資有価証券売却損益	28	2	▲26
固定資産処分損	▲2	▲1	+1
出資金評価損	0	▲1	▲1
投資有価証券評価損	▲0	▲7	▲7
減損損失	▲7	▲15	▲8
その他	0	▲0	-
特別損益合計	20	▲22	▲42

P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

(単位：億円)

【売上高】

	業績予想 (24/7/29時点)			修正業績予想 (24/10/28時点)			上期 差異	下期 差異	年間 差異
	上期	下期	年間	上期	下期	年間			
高機能材料	600	505	1,105	616	539	1,155	+16	+34	+50
エラストマー素材	1,200	1,050	2,250	1,207	1,173	2,380	+7	+123	+130
その他の事業、消去等	300	315	615	311	304	615	+11	▲11	▲0
売上高合計	2,100	1,870	3,970	2,133	2,016	4,150	+33	+146	+180

【営業利益】

	業績予想 (24/7/29時点)			修正業績予想 (24/10/28時点)			上期差異	下期差異	年間差異
	上期	下期	年間	上期	下期	年間			
高機能材料	90	80	170	108	32	140	+18	▲48	▲30
エラストマー素材	60	30	90	60	30	90	+0	▲0	▲0
その他の事業、消去等	0	5	5	▲0	5	5	▲0	+0	+0
営業利益合計	150	115	265	168	67	235	+18	▲48	▲30

■ 下期業績予想を売上高2,016億円、営業利益67億円に修正

下期予想前提：US\$=145円、€=155円、国産ナフサ=¥68,200、アジアブタジエン=US\$1,400

■ 通期業績予想を売上高4,150億円、営業利益235億円に修正

P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

1 当社の目指す姿

- 独創的な技術・製品・サービスを提供する**スペシャリティケミカル企業**であり続ける

2 事業戦略

2-1. ポートフォリオ組み換え（周南エリア）

- C4生産品目の**高収益製品シフト**を図る
- 水島工場と適度な距離にあり、インフラ等条件の整う周南エリアにCOP新プラントの新設を決定
- 同時に、懸案のエラストマー／C4事業の収益性改革を徳山工場から着手

2-2. COPについて

- 力強い需要成長を背景に、**COP新プラントは高い付加価値をもたらすと確信**
- 半導体、メディカルの用途開発が進み、直近5年CAGRは11%
- 既にCOP・フィルムは高機能材料売上の6割
- 水島を中心に生産キャパシティを漸増させてきたが、2028年には限界見込み

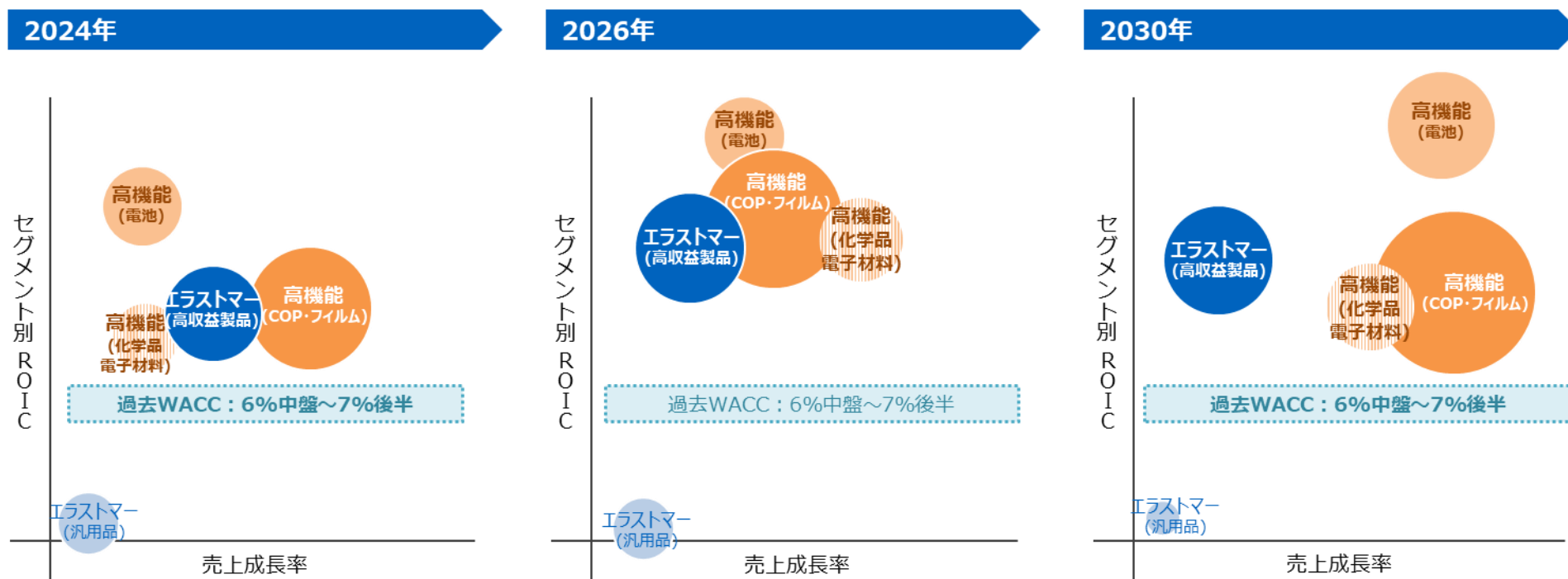
3 資本政策・財務戦略

- 配当方針を**DOE（自己資本配当率）4%以上**に変更
- 2024年度**自己株式取得の100億円増枠**を決定
- 資本コストを上回る資本収益性の確保に向けて、CCCの適正化、将来計画の見直しを実施中

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 —STAGE30の目指す未来

- 当社の資本収益性及び成長性を高付加価値な製品が担う、スペシャリティケミカル企業化を一段と進める
- ポートフォリオ構成の変更により、中長期的な資本効率性向上を目指す

※バブルサイズはEBITDA



※ エラストマー（高収益製品）には、特殊ゴムと溶液重合スチレン・ブタジエンゴム（S-SBR）を含んでおります。エラストマー（汎用品）は売上成長率、セグメント別ROICともに低位置にあるため、公開済の中期経営計画において低収益製品の生産停止計画を開示しています。

※ 売上高成長率は、前年比となります。

- COP新プラントを徳山工場が位置する周南エリアに新設することにしたのは、BCP対応を適えつつ、水島とも連携できる最適な距離であったため（水島工場には増強余地なし）
- 水島以外の既存工場の活用はスクラップアンドビルドとなり新たな土地に建設する方が経済的

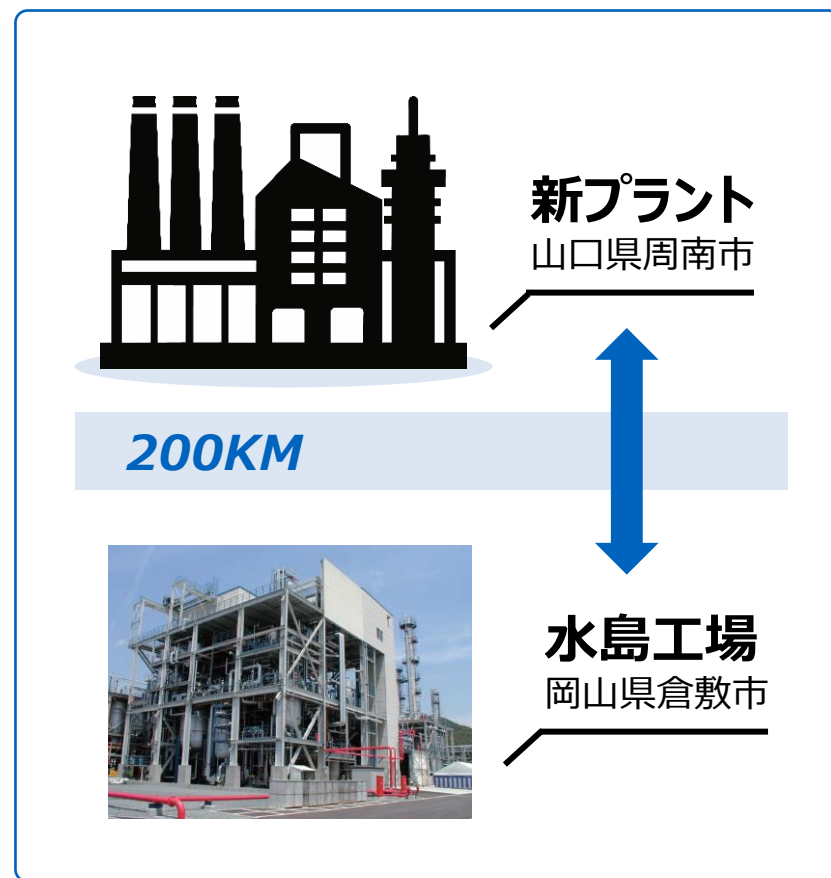
なぜ周南エリアにCOPプラントを新設するのか？

1 水島工場との連携可能な立地（200KM）

- ▶ COPのマザープラントである水島工場と周南エリアは往来容易な距離であり、相互連携した対応が可能

2 BCP対応にも最適な立地

- ▶ 直下型地震発生時に同時被災を免れられる距離
- ▶ 能登半島地震において、氷見二上工場と敦賀工場（距離150KM）で同時被災回避の実績あり



なぜ低収益製品の生産停止が 2026年度までかかるのか？

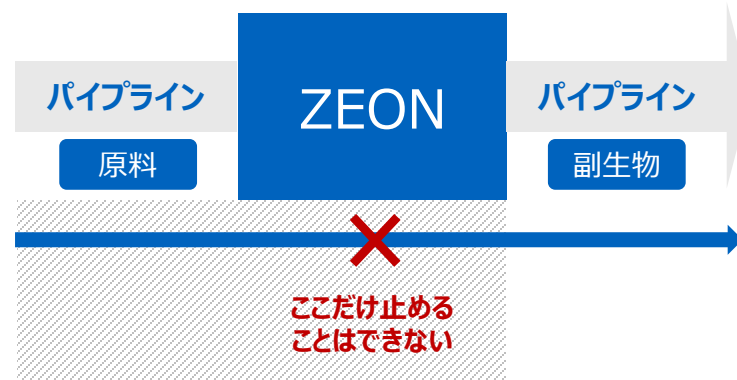
1 周囲の石油コンビナートとの生産工程調整

- ▶ 石油コンビナート内はパイプラインで原料を取得し、自社で使用しない副生物を返却する仕組み
- ▶ エラストマーの一部生産停止した場合、副生物の使用先が新たな調達先を探す必要がある

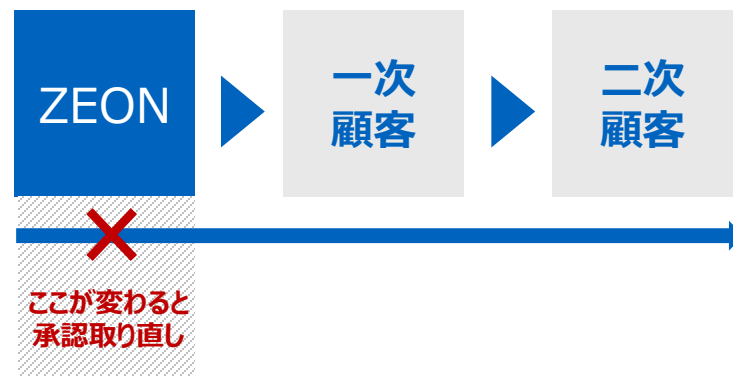
2 原料変更による最終用途先への影響

- ▶ 今回の一部停止製品の用途は主に自動車向けタイヤ用ゴム
- ▶ 自動車関連製品は原料変更時に各種機関の承認を再取得する必要がある

<石油コンビナートでの生産工程調整>



<原料変更によるお客様への影響>



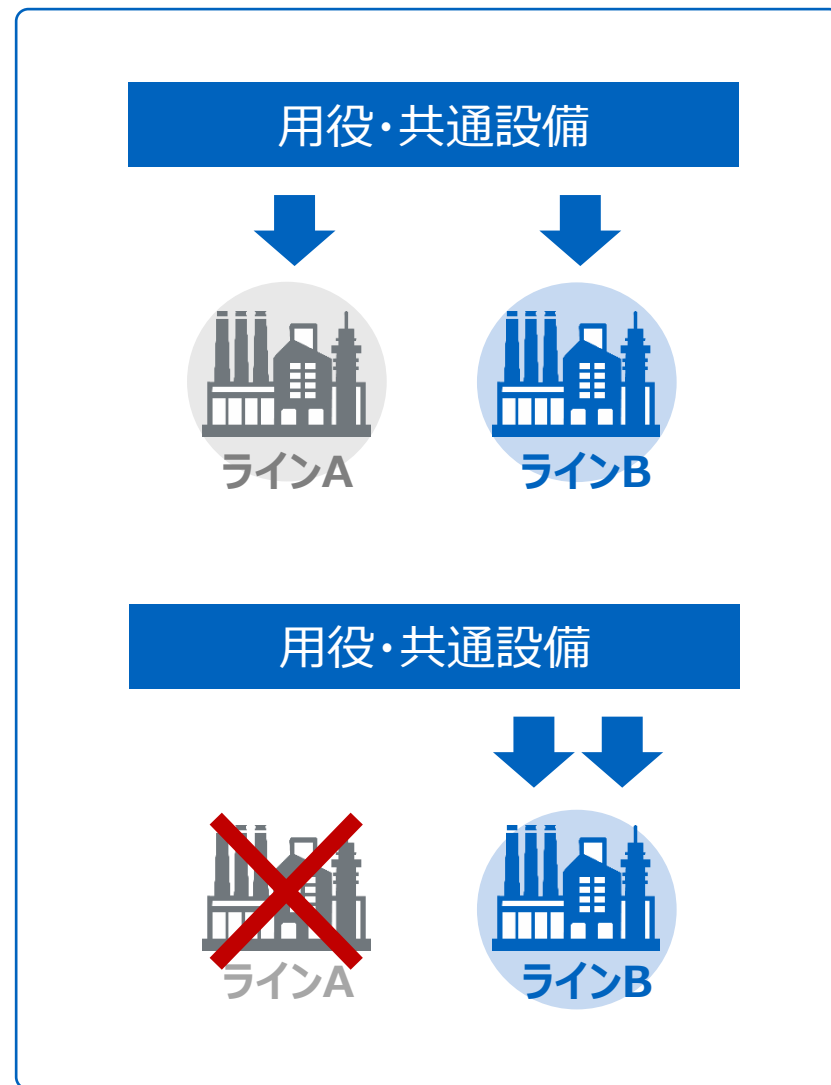
3 エラストマー（汎用品）は、低収益ながらも、 限界利益で固定費回収には貢献可能

- ▶ 用役・共通設備を複数のラインで共有
- ▶ 低収益製品といえども、限界利益創出により徳山工場全体の収益性確保に貢献。段階的にダウンサイジングを図ることで高収益製品の収益性を確保。

なぜ徳山工場のエラストマーから 完全撤退しないのか？

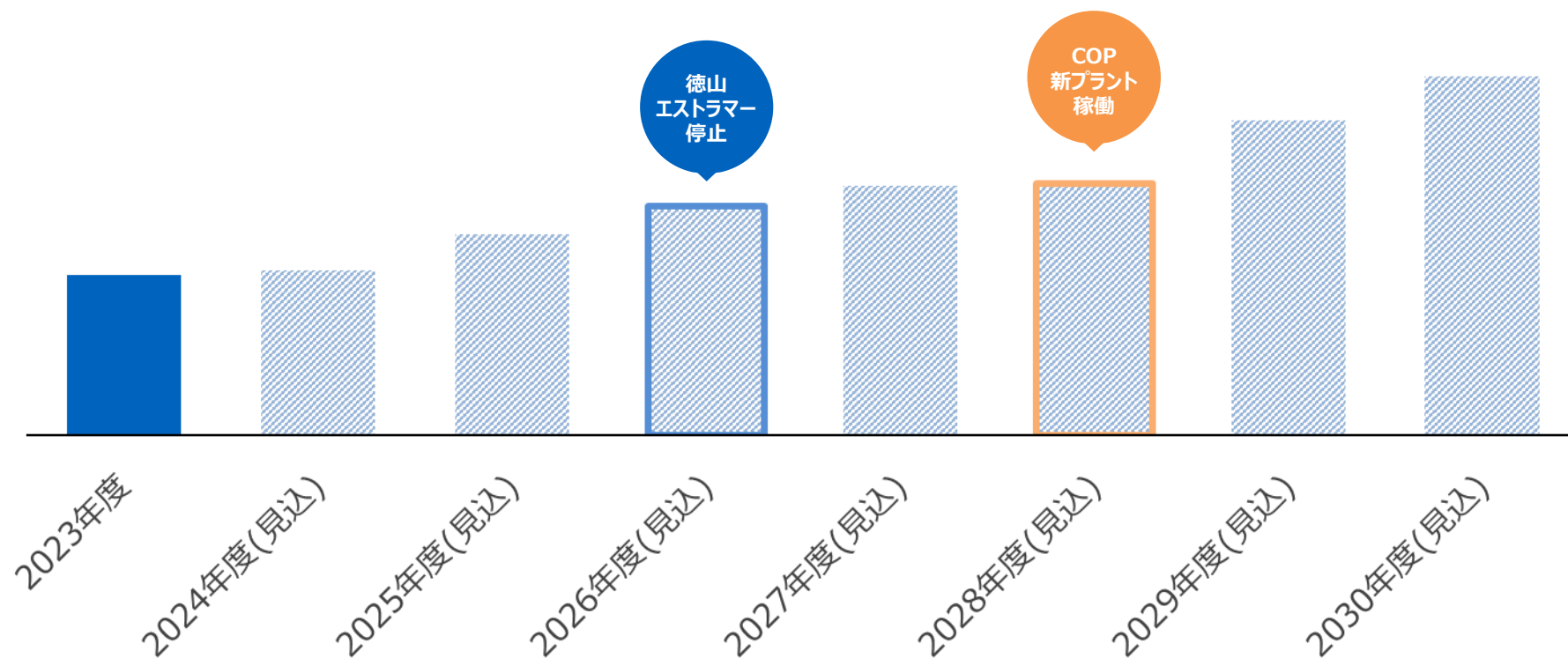
1 エラストマー（高機能製品）は、今後も高い収益 貢献が期待できるため

- ▶ 徳山工場で培うポリマー生産技術は高機能材料製品を含む各種要素技術のベースであり、当社競争力の源泉
- ▶ 徳山工場を中心とした全社生産体制の再構築も見据えつつ、エラストマー素材事業の高収益化に取り組む



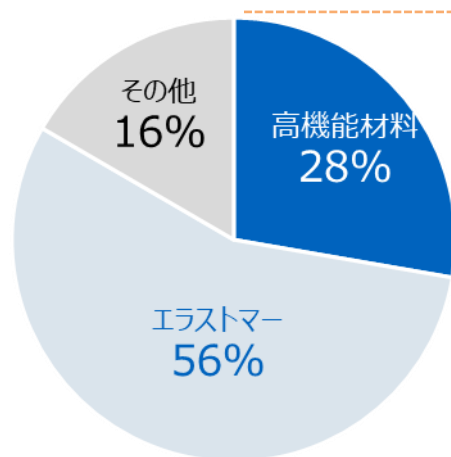
- 営業利益減少はエラストマー停止生産品目の限界利益の減少と、新工場の減価償却が主要因
- 事業撤退そのものにおける追加コストの影響は小さく、EBITDAは飛躍的な拡大を見込む

EBITDAの推移（予想）

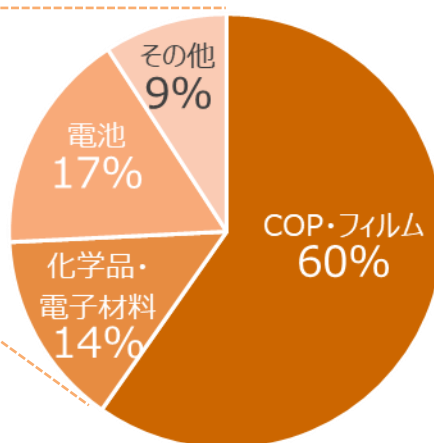


- 現状の高機能材料における製品構成はCOP・フィルムが約6割を占める
- ポートフォリオ組み換えにより、高機能材料の中でも最も限界利益率が高い事業の一つであるCOP・光学フィルムの供給キャパシティを引き上げ、2030年には売上高1,000億円超、ROIC10%超を目指す（2035年には売上高1,300億円規模、ROIC20%中盤を目指す）

連結売上高セグメント別構成
(2024年3月期)

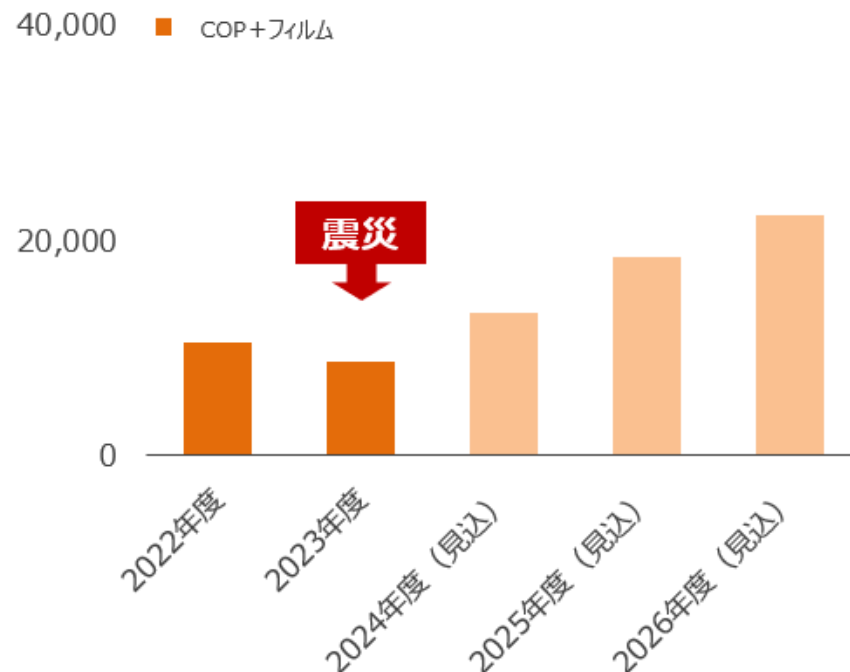


うち高機能材料の製品別構成
(2024年3月期)



製品別のEBITDA推移

(単位：百万円)



- COPの出荷実績は好調に推移。COPへの旺盛な需要に応えるため、COPプラントの新設を判断
- COP新プラント稼働後は、COPとフィルムが最大の成長ドライバーとなることを見込み、10年先を見据えた投資を決断。今回のポートフォリオ組み換えにより、スペシャリティケミカルへの飛躍を目指す

COP・フィルムの生産数量推移

(2014年度=1)



※ 生産数量は日産ベースに換算したものを使用

■ 特に、医療市場では旺盛な需要が顕在化しており高い市場シェアを確保

事業セグメント	市場	売上CAGR見込	COPの優位性	グローバルシェア	成長要因
COP	光学 (レンズ用樹脂)	7%	低吸水性、高透明性、低複屈折、優れたレンズ成型性	中大型レンズ：高シェア 小型レンズ：中シェア	新製品投入により 小型レンズシェア拡大
	診断デバイス (マイクロプレート、 マイクロ流路デバイス)	7%	低蛍光特性による分析速度向上 COP(原料)から製品デバイスまで 一貫生産	現時点ではシェアは小さい	原料(COP)から製品ま での一貫生産による高 コスト競争力と製品開 発力
	医療用 (PFS、包装用、その他)	6%	タンパク質(抗体)、核酸の吸着性が低い為、 バイオ薬(抗体、核酸薬)向けに有利	樹脂製ではデファクト スタンダード	ワクチン等のバイオ薬 市場拡大
	半導体 (電気・電子)	12%	低アウトガスにより微細化半導体容器向けに 有利(半導体製造歩留まり改善に貢献)	微細半導体向けでは トップシェア	半導体市場成長および PC製半導体容器シェア 獲得
光学フィル ム	位相差フィルム	6%	低吸水性により画面サイズ55"以上の領域で COPフィルムが有利	55"以上ではデファクト スタンダード	テレビ画面サイズの 大型化

2023年度高機能樹脂売上高の約9割

確度が高い成長ドライバー

※ CAGRは2024年度以降10年間の当社の売上高の平均成長率(診断デバイスは市場成長率を掲載)

※ PFS=プレフィルドシリンジ、PC=ポリカーボネート

2026年度ROE目標を9%→10%へ見直し

株主還元の強化、及び資本収益性向上に向けた取り組みを進める

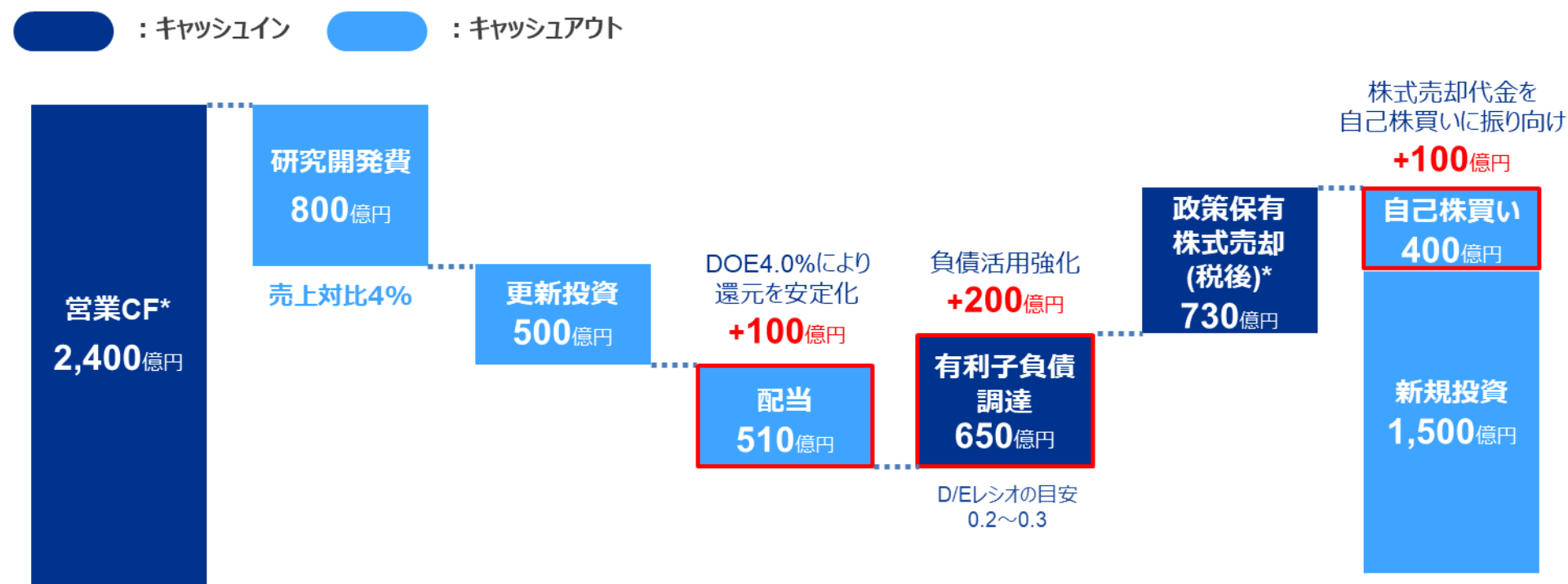
■ 株主還元の強化

- DOE（自己資本配当率）4%以上とする配当方針、及び2024年度自己株式取得の100億円増枠を決定

■ 資本コストを上回る資本収益性の確保に向けた取り組み

- CCC水準の適正化 : 在庫にかかる社内モニタリング強化
- 費用計画等の見直し : 販管費・工場固定費を見直し中
- 財務レバレッジ目標の見直し : 事業・投資見通しを精査中

■ 株主還元の強化により増加したキャッシュアウトは、有利子負債調達の増加で補填



*. 政策保有株売却想定額840億円に対する課税想定額110億円を、政策保有株売却から控除し、営業CFに加算したことで、「中期経営計画第2フェーズ（23-26年度）進捗（2024年6月11日）」から、営業CF及び政策保有株式売却の金額が変動しております

新たな株主還元方針

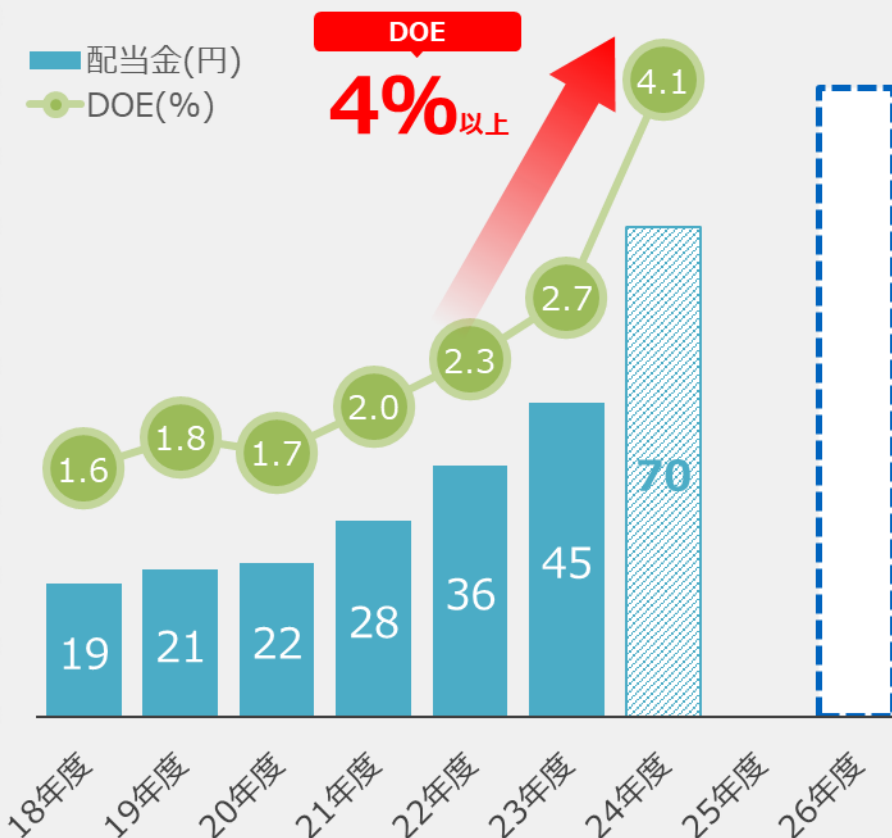
① 配当のKPIとしてDOEを採用し、
DOE4%以上とする

② 自己株式取得（計画）増額

24年度－26年度

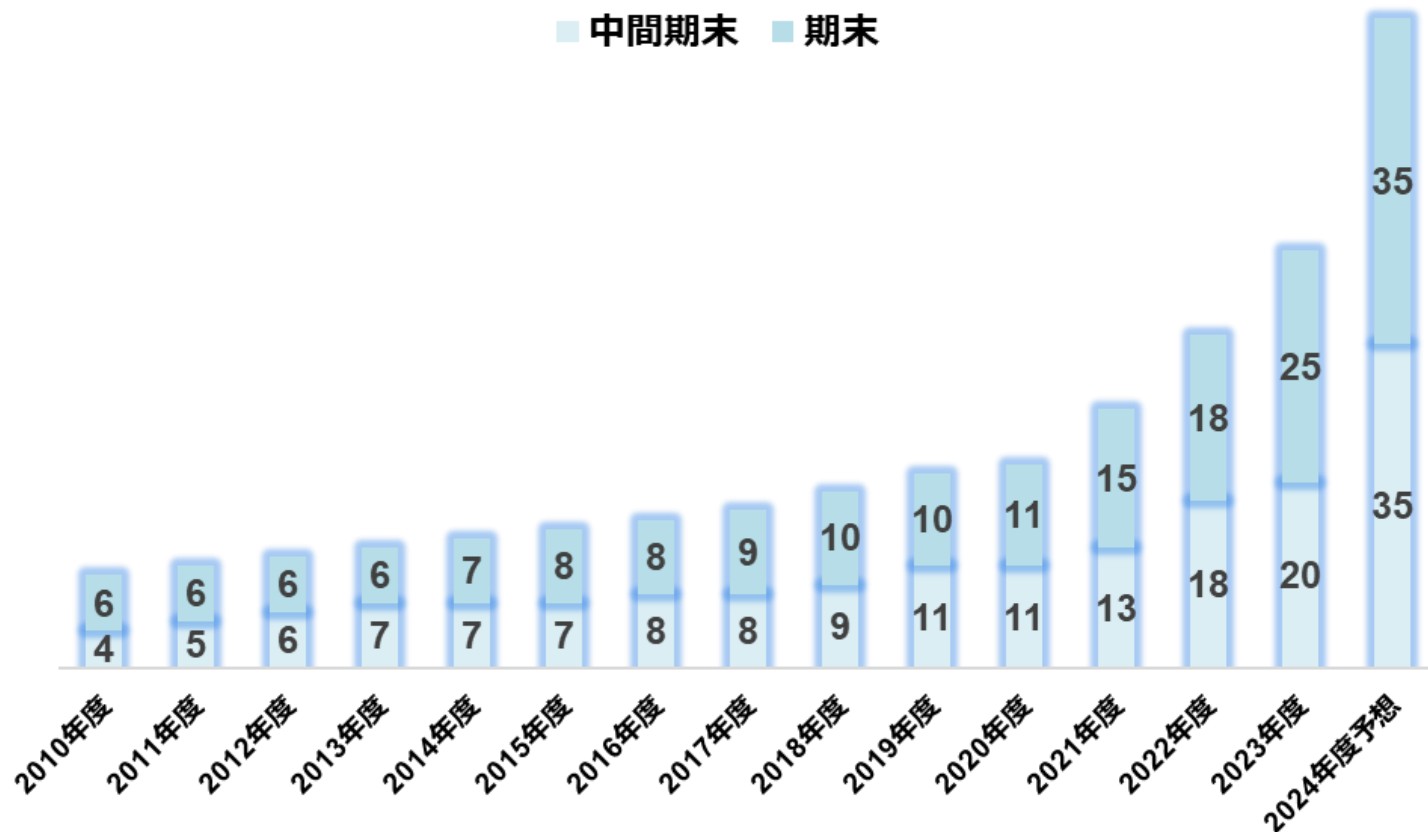
300億円 ▶ **400億円**

- 24年度 100億円 ▶ **200億円**
- 25-26年度 200億円



P.2	総括
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.10	高機能材料 P/L
P.11	高機能材料 営業利益差異
P.13	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.14	高機能樹脂事業：COPの状況
P.15	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.17	エラストマー素材 P/L
P.18	エラストマー素材 営業利益差異
P.20	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.22	B/S概要
P.23	C/F概要
P.24	営業外損益、特別損益
P.26	2024年度 事業環境
P.28	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
P.41	2024年度 株主還元予想

【配当金予想、単位：円】



- 2024年度の配当金は年間70円を予想（対前年度+25円）
- 年間配当額は2010年度から15期連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

2024年度 Q3決算発表	2025年1月31日を予定
--------------------------	----------------------

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

以 上

統合報告書
2024年度版を発行
しました
[こちら](#)

アップサイド

エンドマーケット需要回復の早期化

為替の円安化

市況回復の早期化

円安ドル高

景気回復

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

市況回復の長期化

円高ドル安

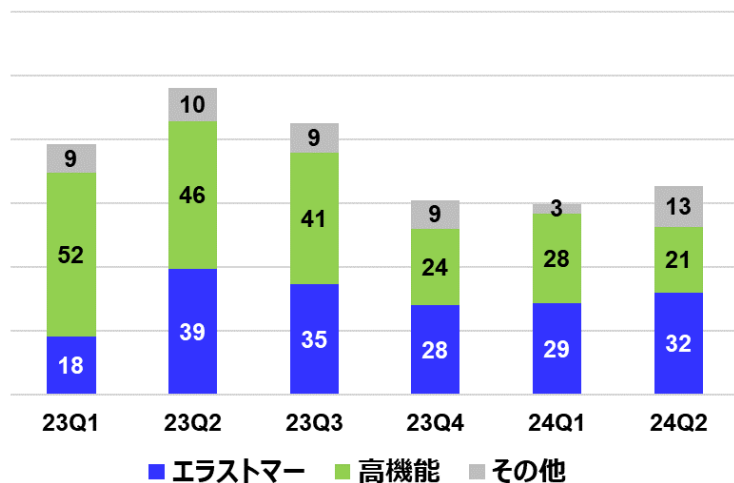
景気悪化

円高ユーロ安

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

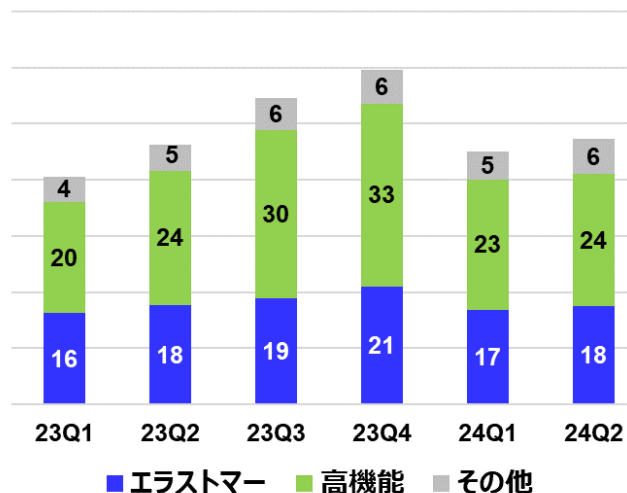
【資本的支出】



23年度実績
322億円

24年度予想
330億円

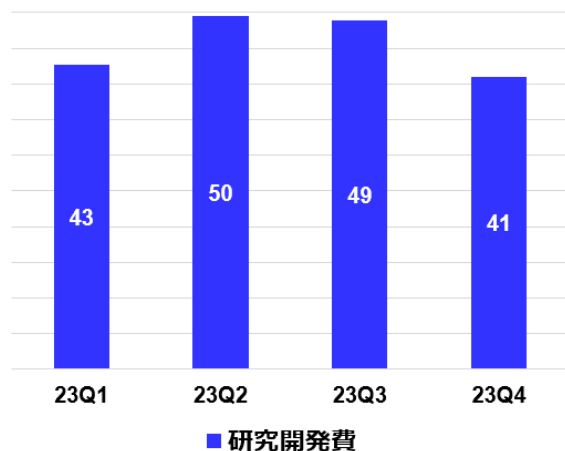
【減価償却費】



23年度実績
202億円

24年度予想
210億円

【研究開発費】

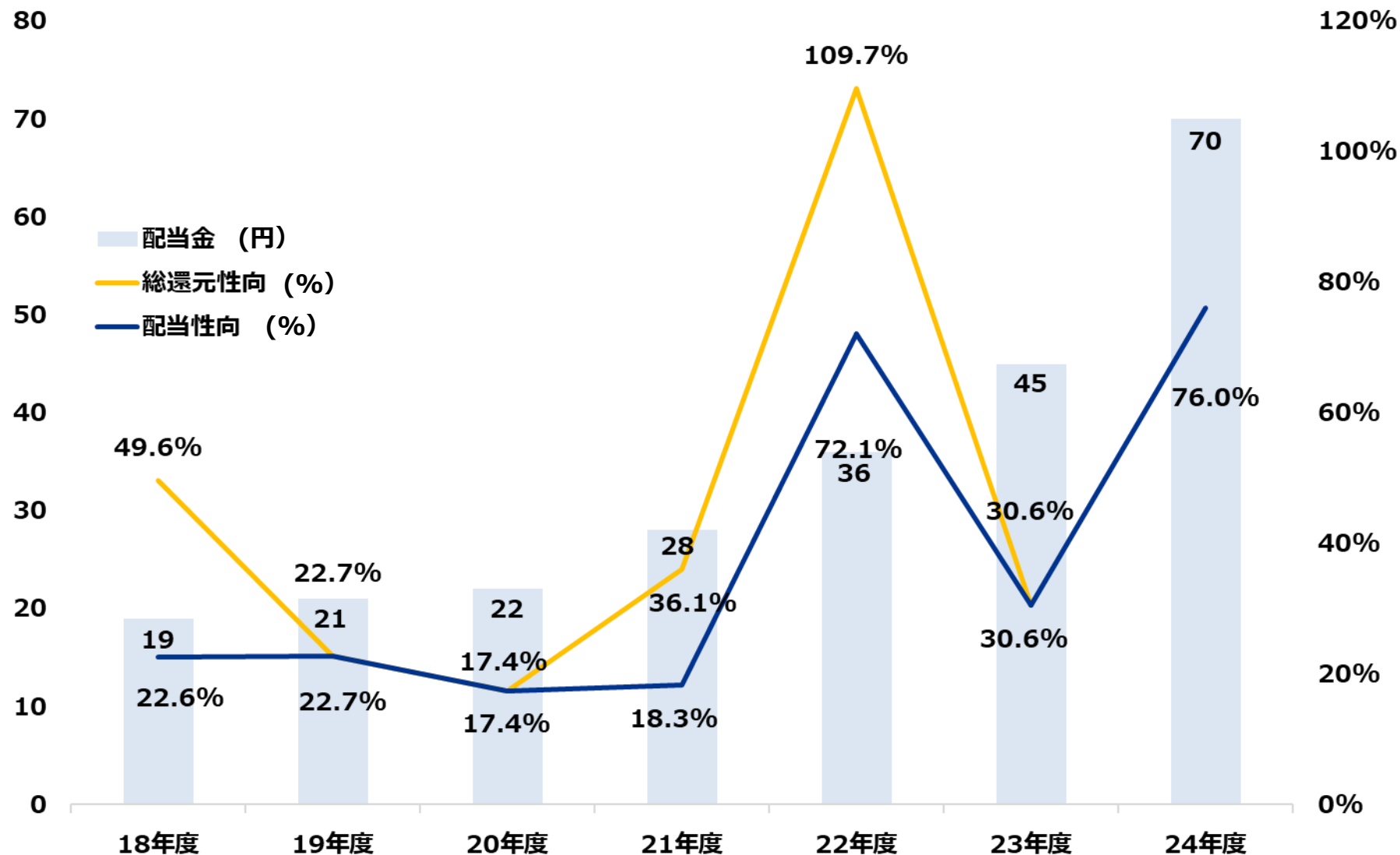


23年度実績
182億円

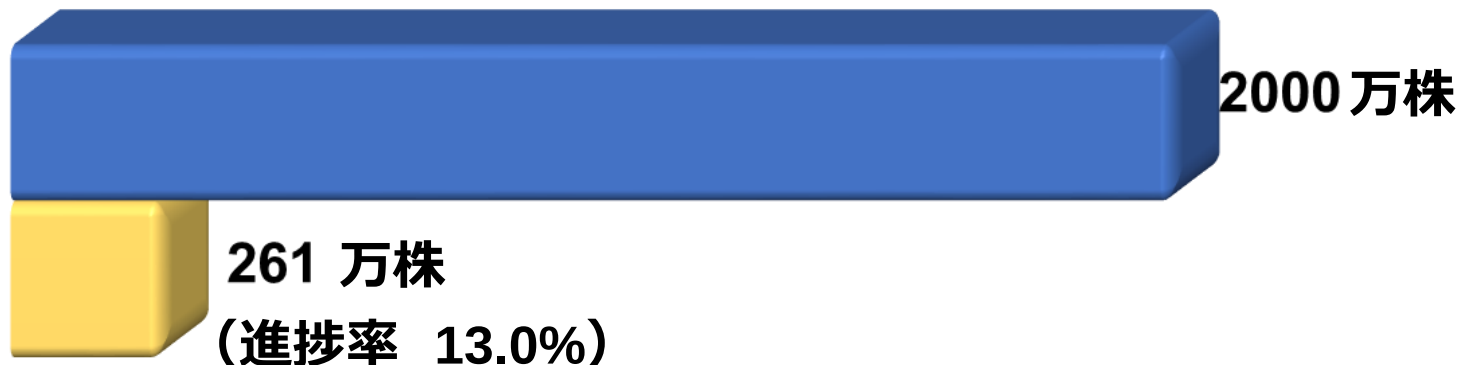
24年度予想
188億円

(単位：円)

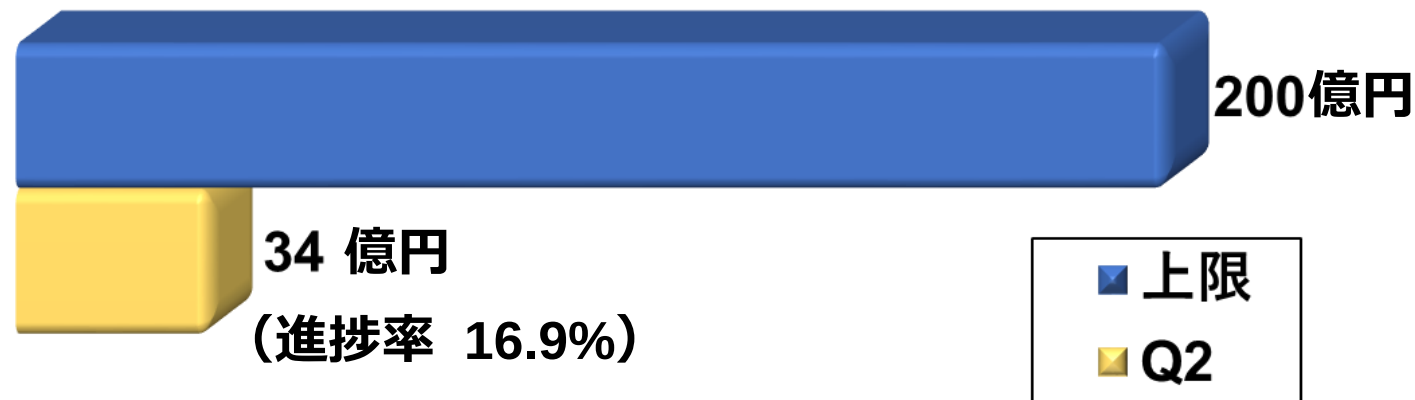
(単位：%)



株式数



取得金額



- 1,000万株/100億円を上限に、自己株式の取得を実施中
10/28に1,000万株/100億円を追加し、2,000万株/200億円が新上限
- 取得後の全株式について消却を決定済